

豊田市 郷土資料館だより

No.98



挙母 香桜連の法被



『挙母花街競艶録』

足助
「日月もなか」の帯をつけた芸者（個人蔵）

目次

企画展「とよたの芸者さん」	
近代の芸妓と娼妓	2
平成28年度 文化財保護事業報告	3
平成28年度 郷土資料館事業報告	4
とよた歴史マイスター活動報告	5
灰宝神社の神庫	6
豊田市の「花のとう（おためし）」	7
新規開館施設紹介 豊田市歌舞伎伝承館	8



芸者が使用した太鼓

近代の芸妓げいぎと娼妓しょうぎ

現在では、芸者は一部の観光地などに存在するのみですが、昔は主だった都市には必ずと言っていいほど、芸者がいました。平成29年7月8日から開催の企画展では、昭和30～40年代に豊田市域で活躍していた芸者について、聞き取り調査で明らかになった内容をもとに展示します。



名古屋で香嵐溪の宣伝をする足助の芸者(昭和31年)

ここでは、近代の芸者を取り巻く社会状況や、芸者と同じ枠組みで語られることの多い娼妓(遊女)について、法制度を追うことにより紹介し、芸者が歩んできた道をたどってみます。

江戸時代において、芸者はすでに歌舞音曲を専門とする者として、遊女とともに存在しました。江戸では、吉原遊廓内の吉原芸者の他に町芸者がいましたが、京都では芸子(芸者)は遊廓内でのみ営業が許されていました。江戸・京都以外にも、芸者は存在したと思われませんが、その実態は明らかになっていません。

明治5年(1872)、政府は諸外国からの批判を逃れるため太政官布告第295号(「芸娼妓解放令」)を出し、芸妓(芸者)・娼妓(遊女)の、人身売買同様の年季奉公を禁止しました。しかし、困窮した末に売られてきた彼女たちに帰る場所はありませんでした。そのような状況を見越した政府は、遊女屋(かしばしき)を貸座敷として営業することを認め、芸妓・娼妓を遊女屋に拘束されない独立した存在とみなすことで、国際社会の中での体裁を保ちつつ、遊郭・花街の存在を肯定しました。ただし、芸妓・娼妓の営業には各府県が発行する鑑札(免許)が必要で、納税義務も課されました。さらに、娼妓に対しては性病蔓延を防ぐための検梅の制度が整えられ、ここに近代の公娼制度が始まります。公娼制度とは、性売買を国家が管理するもので、芸妓

を対象とするものではありませんが、法令には娼妓と併記されるなど、同じ枠組みの中で取締りが行われることも多くあります。このような取締りのあり方は、府県によって異なります。それは、政府が娼妓を公認しているという状態を隠すため、明治33年(1900)に娼妓取締規則を公布するまでは、具体的な法令を出さず、府県の裁量が大部分認められていたためです。

愛知県では、名古屋、熱田、岡崎、豊橋に公認遊廓があり、その他での娼妓の営業は禁止されました。芸妓の営業区域についても、明治7年(1874)に遊廓地に限定されましたが、後に遊廓外での性売買を罰する制度が確立したことから、芸妓は歌舞音曲を本業とするものとして、明治9年(1876)には営業区域の制限が撤廃されました。こうして、明治、大正と芸妓は増加していきます。

大正2年(1913)における豊田市域の芸妓は、拳母28人、足助22人でしたが、大正14年(1925)には拳母58人、足助45人に増加しています。

戦後の昭和21年(1946)には公娼制度が廃止されますが、遊廓は「赤線」と名前を変えて存続し、性売買の営業がなくなることはありませんでした。拳母にも観月境と呼ばれた地があり、田んぼに囲まれた中で、夜でも煌々と灯りがついていたと言います。それも、昭和31年(1956)に売春防止法が公布されたことにより消滅しました。

花街の歴史の中、芸妓は踊り・三味線などの技を磨き続け、江戸時代からの伝統を今に伝えるとともに、拳母小唄の披露や香嵐溪の宣伝など、町の振興に大きな役割を果たしました。



拳母小唄・音頭パンフレット(個人蔵)
(山田佳美)

企画展「とよたの芸者さん」

会 期：平成29年7月8日(土)～9月3日(日)

月曜休館(祝日は開館)

観覧料：無料

1 文化財保護審議会 3回

文化財指定の諮問

「守綱寺本堂障壁画」「桶茶道具」

文化財防火デー

昌全寺、皆福寺、如意寺、浄照寺

2 伝統的建造物群保存地区保存審議会 2回**3 埋蔵文化財調査の概要****○有無の照会**

住宅建設・開発の事前調査などに伴って文化財課へ埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の有無が照会されます。近年の照会件数は、26年度1,687件、27年度1,323件でした。平成28年度は1,321件で前年とほぼ同数でした。

○届出

遺跡内での開発には文化財保護法により届出・通知が必要です。平成28年度は表1の通りでした。

表1 届出一覧

地区	民間	公共	主な遺跡
猿投	10	2	伊保遺跡、太戸遺跡
拳母	24	4	拳母城（桜城）跡、瑞穂遺跡
高橋	50	1	高橋遺跡、寺部遺跡、栃原遺跡
松平	1	1	滝脇遺跡、吉ヶ入A遺跡
高岡	4	1	五反田遺跡、本地城跡
上郷	6	5	上野上村城跡、上野下村城跡
藤岡	12	3	御子塚遺跡、辻貝戸遺跡
小原	0	1	大福寺遺跡
足助	4	12	陣屋跡遺跡、植田遺跡
下山	2	3	西街道遺跡、田代B遺跡
旭	1	4	宇内戸遺跡、落合遺跡
稲武	1	2	中沼遺跡
計	115	39	

届出のあった案件の中で確認調査・試掘調査等を14件実施しました（表2）。また、本調査は、2件実施しました（表3）。

表2 確認調査・試掘調査を実施した遺跡（一部）

遺跡名（所在地）	調査原因等	調査面積（㎡）
豊田大塚古墳（河合町）	保存整備	38
根川古墳（東保見町）	保存整備	160
上小田古瓦出土地（平戸橋町）	道路工事	24
四郷地区（四郷町）	区画整理	70
花本遺跡（花本町）	宅地造成	93

表3 本調査を実施した遺跡一覧

遺跡名（所在地）	調査原因	調査面積（㎡）	主な遺構
豊田大塚古墳（河合町）	宅地造成	53	周溝
寺部遺跡16A-G区（上野町・寺部町）	区画整理	5,191	土坑・溝・竪穴建物跡

○発掘調査報告書刊行

第71集『鷹見城跡・宮口元屋敷遺跡・鳳面館跡・竹元町1号塚』、第72集『勸学院文

護寺跡』、第73集『寺部遺跡Ⅶ』を刊行したほか、『平成27年度市内遺跡発掘調査事業概要報告書』を作成しました。

4 文化財等保存維持・修理補助事業

- ・有形文化財保存修理 2件
（織田信長像肖像画ほか）
- ・有形民俗文化財保存修理 3件
（竹生町山車修理ほか）
- ・史跡名勝天然記念物保存整備 4件
（飯盛城跡崩落斜面の修復保護ほか）
- ・建造物修理 1団体（守綱寺鐘楼堂修理）
- ・有形民俗文化財保存維持 16団体
（中町拳母まつり山車保存会ほか）
- ・無形民俗文化財保存維持 30団体
（中町拳母祭り囃子保存会ほか）
- ・伝統的郷土芸能保存維持 23団体
（配津町祭り囃子保存会ほか）
- ・伝統的郷土芸能保存修理 5団体
（足助西町お囃子会ほか）
- ・郷土の先人顕彰活動 4団体
（松平親氏公顕彰会ほか）

5 史跡・名勝・建造物等整備・修理

- ・曾根遺跡公園復元家屋茅葺き替え修繕
- ・足助城の園路・屋根等修繕
- ・市場城車道路面修繕
- ・鴛鴨城擬木柵修繕
- ・史跡等看板設置 12カ所
- ・旧松本家長屋門調査報告書作成・刊行

6 民俗芸能普及推進

- ・民俗芸能記録
（古瀬間ばやし、長興寺自治区八柱神社大祭）
- ・民俗芸能大会 11月26日開催
銭太鼓保存会はじめ7団体／424人
- ・「綾渡の夜念仏と盆踊」見学ツアー
8月10日実施 21人

7 計画等策定

- ・豊田市新博物館基本構想策定
- ・豊田市歴史文化基本構想策定
（平成29年度へ継続）

8 その他

- ・二ホンカモシカ減失対応 32件

平成28年度 郷土資料館事業報告

1 展示・入館者数

平成28年度入館者数 14,003人

- ・企画展
「須藤しげるの世界」(7/5～9/4) 2,917人
- ・特別展
「旧家の蔵から～足助の町を彩った商人文化～」
(9/17～11/27) 2,700人
- ・企画展
「古い道具と昔の暮らし～もつ・かつぐ・
はこぶ～」(12/17～3/12) 4,319人



2 資料調査

- ・旧鈴木家住宅古文書調査／市内各地民具調査

3 資料収集・複製・修復

- ・「長篠合戦図屏風」複製購入ほか
- ・「四季風俗図屏風(左隻)」修復

4 資料貸出

- ・他館等への資料貸出し(写真含む) 182件

5 講座ほか

- ・「まが玉づくり」「土偶づくり」
各1回／272人
- ・こども向け体験企画
長期休暇期間にあわせ 3回
春 718人／夏 2,405人／冬 799人
- ・よろいを着てみよう 1回／337人
- ・ギャラリートーク 10回／284人
- ・史跡めぐり 2回／44人
- ・とよた歴史検定
12月3日(土) 会場:豊田市青少年センター
初級 応募者 42人、合格者 33人
上級 応募者 28人、合格者 21人
- ・子ども向け Web 版「とよた歴史検定」
3回更新 アクセス件数 491件

6 とよた歴史マイスター活動

認定者 64人 活動参加者数 延べ 446人



とよた歴史マイスターによる五月人形の展示

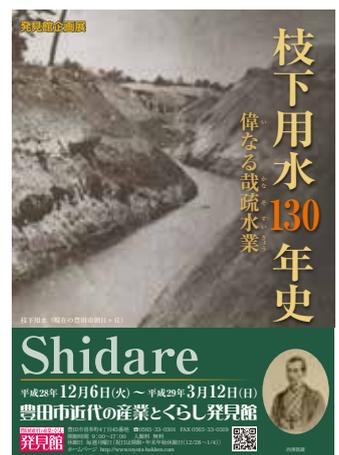
7 郷土学習スクールサポート

延べ 179校／14,093人の小中学生が利用
地域学習サポート活動 61件／146人実施

8 近代の産業と暮らし発見館

平成28年度入館者数 10,929人

- ・企画展
「まゆまつり 2016～カイコと道具～」
(4/26～7/3) 2,152人
- ・企画展
「本多静雄～民芸と陶磁を愛した技術者～」
(7/26～10/2) 2,439人
- ・企画展
「枝下用水 130年史～偉なる哉疏水業～」
(12/6～3/12) 2,940人
- ・展覧会ギャラリートーク 7回
- ・ものづくり講座
「まゆ花のメッセージボード」ほか
- ・見学会
「養蚕農家を訪ねて」など 3回
- ・ぶらコロモ
年4回開催(名木めぐり編、路地めぐり編、
エコめぐり編、運氣アップ編)





とよた歴史マイスター活動報告

豊田市の歴史・文化財について学び、伝える活動を行う「とよた歴史マイスター」は、現在92名で活動しています(平成29年5月31日現在)。その活動の一部をご紹介します!

豊田のむかし聞き取り隊

地域の歴史を知るためには、古文書や遺跡からの出土遺物、民具などのほか、そこで生活していた人の記憶も貴重な資料です。忘れられてしまう記憶を記録し、後世に伝えるとともに、新たな豊田市の歴史・文化を発見するため、豊田市の昔のことを知っている方から、お話を伺いました。

マイスター2名でお話を聞きます。5月下旬に3グループが活動し、昭和中期の四郷の棒の手などの話が聞けました。これから、聞いた内容をまとめ、発表していきます。



平成29年度 特別展「ぼくらの“1967”」プロジェクト

豊田市郷土資料館は平成29年度で開館50周年を迎えることから、50年前の豊田市を振り返る特別展「ぼくらの“1967” —50年前のとよた・日本・世界—」を開催します。今回、初めての試みとして、郷土資料館とマイスターと一緒に特別展の展示準備を進めています。

10名のマイスターがこのプロジェクトに参加し、企画や調査などを行っています。特別展は平成29年9月30日(土)からです。プロジェクトの成果をお楽しみに!



自主勉強会 防災啓発「備える歴史学」

同じ興味・関心をもつマイスターでグループを作り、自主勉強会を行っています。この会では、南海トラフ巨大地震、特に昭和19年(1944)の東南海地震と昭和20年(1945)の三河地震について歴史的に調査・研究し、防災啓発に役立てることを目的に活動しています。

この他、とよた歴史マイスターは展示のガイドや、郷土学習スクールサポートなどの活動も行っています。マイスターの認定は年2回行っており、次回の申込み締切は、**平成29年10月31日**です。郷土資料館とともに地域の歴史を再発見し、市民の皆さんに広げていく、そんな活動をしていきませんか?

郷土想いの 寄進が国宝を守った 灰宝神社の神庫

越戸町の国道 153 号沿いに灰宝神社【写真 1】があります。慶雲 3 年 (706) 創建、延喜式神名帳にも記載される由緒ある神社です。この神社の西側奥に、鉄筋コンクリート製の強固な神庫【写真 2】があります。これは、郷土の偉人・前田栄次郎氏 (1874 ~ 1961) 【写真 3】が寄進した物です。この神庫が無かったら、太平洋戦争の空襲で多くの文化財が焼失していたかもしれません。

栄次郎氏は当時の越戸村で少年期を過ごし、14 才の時家業の土木建築業に携わり、矢作川や籠川の堤防新設、修理業に従事しました。そして腕を上げ、帝都東京に出て土木建築請負業を営みました。明治 37 年 (1904)、日露戦争勃発に伴い、朝鮮半島の軍用道路建設の特命を受けました。これを契機に明治末期から大正初期にかけて、朝鮮・満州の各地で国策遂行の一翼を担って尽力したのです。大正 4 年 (1915) 帰国後も、東京を基盤とし、鉄道、電力、治水関係のビッグプロジェクトを手がけました。また、大正 12 年 (1923) に発生した関東大震災後の帝都復興事業として、地下鉄や幹線道路の難工事を完遂しました。国内に戻っても、朝鮮や満州からの工事依頼は途切れず、身を粉にして働き、会社の業績は絶頂期でした。

その後、昭和 6 年 (1931) 自ら興した前田組を後進に譲りました。栄次郎氏は新しい事業として、貸別荘業を軽井沢や熱海などで営みました。一代で莫大な富を成しても、その富を内に蓄財することなく、社会還元を務めました。事業に励む一方で、故郷に思いを馳せ、郷土発展を願い、昭和 7 年 (1932) より、郷土 3 社の神殿や建屋、境内の各種施設を寄進しました。

太平洋戦争突入後の昭和 18 年 (1943)、焼失を避けようと空襲が予想される地域から安全な地域へ文化財を分散疎開させる方針が閣議決定されました。当時の名古屋城は天下に誇る木造の名城で、昭和 5 年 (1930) に城郭として旧国宝第 1 号に指定される程の文化財でした。また、内部にも

ちくりんひょうこず
將軍家から伝わる竹林豹虎図の障壁画などの文化財が多数ありました。愛知県はそれらの疎開先の一つとして、この灰宝神社の神庫を選びました。名古屋から越戸の灰宝神社への疎開が極秘裏に始まりましたが、国宝類を一時的にでも預かることは、地元にとって名誉であると同時に大きな責任が伴いました。爆撃機の空襲や、動乱に乗じて紛失する可能性もあることから、当時の関係者 (村役、神社総代など) は身内にも事の重大性を口外できませんでした。文化財は名古屋城だけでなく、大須観音、熱田神宮などからも集められ、その数は 4,700 点を超えたことから、管理の大変さが想像できます。そして終戦後、文化財は無事に所有者に返還され、神庫はその役目を解かれました。この史実は平成に入り広く知られることになりましたが、中にはその事実を家族にも打ち明けず、お墓の中まで持って行かれた関係者もいました。

この時、栄次郎氏はどのような気持ちでこの事実を受けとめたのでしょうか？ 戦時中の情報が規制された中では、この功績も本人に知らされなかったかもしれません。栄次郎氏は働き盛りの時、帝都東京や大陸にいても心は越戸にありました。戦前、大陸での不穏な空気の中、きっとこのような事態を想定し、地元**に強固な鉄筋コンクリート製の神庫を寄進したような気がしてなりません。**

戦争は多くの人を犠牲にし、家屋や文化財を焼失させました。また、残った人の心をも深く傷付けました。私たちが出来る平和活動の一つが、文化財に愛着と誇りを持ち、後世に引き継ぐことです。平和な世の中となった現代、灰宝神社では毎年秋の大祭で、子どもたちによる艶やかな巫女舞いが披露されます。栄次郎氏と当時の神社関係者は天国で、この子たちと地域の安全・安心を見守っていることでしょう。

(とよた歴史マイスター 田内 三男)



【写真1】灰宝神社



【写真2】鉄筋コンクリート製の神庫



【写真3】前田栄次郎氏

豊田市の「花のとう（おためし）」

皆さんは、「花のとう（おためし）」という行事を知っていますか？

「花のとう（おためし）」は、愛知県において尾張・三河地方を中心に主に旧暦4月8日に行われてきた作占い行事です。神社や寺院の境内に農作業の様子を模型や人形などでジオラマ風に表した「おためし」と呼ばれる飾り物を作り、参詣者は各々その年の作物の出来不出来や天候、景気などを占いました。豊田市内では、旧来6か所ほどで行われていたことが確認されていますが、現在は守綱神社（寺部町）、松生嶋観音（九久平町）、射穂神社（保見町）の3か所で行われています。



子守業師（拳母神社内）の花のとう（おためし）の様子（昭和47年）



「熱田神宮豊年祭之図」
実際に見た「おためし」とこの図を基に作ります。

「おためし」を見学するところから始まります。飾り物などの詳細を記録し、地域に持ち帰り、自分たちの「おためし」を制作します。毎年、位置や並べてあるものが変わるため、必ず熱田神宮に行かなければなりません。

射穂神社・松生嶋観音では5月8日の午前中に熱田神宮へおためしを見学に行き、午後から飾り、9・10日の2日間を見学の期間としています。



熱心に記録をとります。
写真がない頃は、必死にスケッチをしたそうです。
（守綱神社の「おためし」を制作する皆さん）

「おためし」を制作する際には、熱田神宮の「おためし」を基にするのですが、それぞれの地区で制作する人々が手作りした飾り物などを配置するの



準備の様子
（射穂神社の「おためし」を制作する皆さん）

で、3か所の「おためし」は人形の作りや顔立ち、雰囲気など、一つとして同じ所はないため、見どころの一つとなっています。

当日は、地域の保育園や小学校の子どもたちが見学に来たり、地元の人たちが見学に来ていました。守綱神社（5月14日開催）では、呈茶席や剣道の披露が行われており、地元の人々でにぎわっていました。くじ引きを行う所もありました。ある地元の人には、「昔は、おためしの後に、畑に作物の苗を植えていた。おためしを見て、今年はこの苗を植えようかなどを考えるんだ」とおっしゃっていました。



完成した「おためし」（松生嶋観音）

地域的にみる

と、本市の「おためし」は、三河地区内で同様の祭礼を行う北限となっていることにも注目できます。農業と密接に関係している行事ですので、担い手も高齢化が進み、近年は見学者が少なくなっているそうです。

実は、今年市内3か所で行われた「花のとう（おためし）」を映像記録化しました。年度末には完成し、図書館や自治区への配布を予定しています。それぞれの地域でご協力いただいた皆さまにお礼申し上げますと共に、昔から生活の基盤になっていた農業の大切さとあわせて、このユニークな行事が広く知られ、後世へ継承されていくことを願っています。

（名和奈美）

新規開館
施設紹介

豊田市歌舞伎伝承館

去る4月1日、豊田市に根付き、人々に親しまれてきた歌舞伎の魅力を伝えるために「豊田市歌舞伎伝承館」がオープンしました。



歌舞伎伝承館とは

豊田市はその市域の多くが自然豊かな中山間地であり、それらの地域では古くから歌舞伎が演じられてきました。歌舞伎は神社境内に建てられた農村舞台で行われ、市内には84棟もの舞台が今に伝わっています。また、市内では市の無形民俗文化財に指定されている小原歌舞伎をはじめ、旭・石野・藤岡の4つの保存会、それに加えて萩野小学校(足助地区)の歌舞伎クラブが精力的に活動しています。

豊田市歌舞伎伝承館は、そうした市内に伝わる歌舞伎の魅力に触れていただくための施設です。歌舞伎にまつわる資料の展示、多目的ステージを使った公開練習の見学・体験プログラムの実施、歌舞伎保存会の活動情報の提供など、歌舞伎の魅力を発信する活動を展開します。また、小原地区の歴史資料も併せて紹介します。

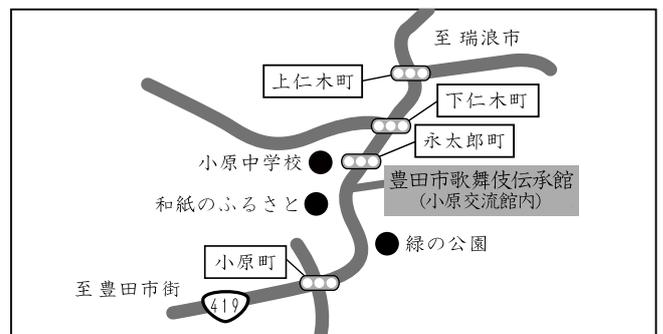
歌舞伎資料展示

色鮮やかな衣裳や小道具、楽器、台本など、歌舞伎で実際に使用されていた資料をはじめ、錦絵や土人形など、歌舞伎文化を伝える資料を展示しています。



郷土資料展示

豊かな自然とシキザクラの情緒ある風景に恵まれた小原地区。約1万8千年前から現代に至るまで、長きに渡り様々な歴史が紡がれてきました。ここでは、小原地区の歴史に関わる様々な話題を、地区に残された資料と共に紹介します。



豊田市歌舞伎伝承館

〒470-0562 豊田市永太郎町落681-1 (小原交流館内)
TEL 0565-65-3711 FAX 0565-65-1189
HP <http://toyota-kabuki.jp>

■豊田市郷土資料館利用案内■

開館時間 9:00~17:00
休館日 毎週月曜日(祝祭日は開館)
入館料 無料(特別展開催中は有料)
交通案内 名鉄「梅坪駅」より南へ 徒歩10分
名鉄「豊田市駅」より北へ 徒歩15分
愛知環状線「新豊田駅」より 徒歩15分
とよたおいでんバス「陣中町一丁目」より西へ 徒歩5分
駐車場 約20台

●豊田市郷土資料館だより No.98

平成29年7月4日発行
編集・発行 豊田市郷土資料館
〒471-0079 豊田市陣中町1-21
TEL 0565-32-6561 FAX 0565-34-0095
E-mail ●rekihaku@city.toyota.aichi.jp
URL ●<http://www.toyota-rekihaku.com>
FB ●<http://facebook.com/toyotarekihaku>

※豊田市郷土資料館だよりは、HPでもご覧いただけます。